

NPO 法人ワンダーポケット2019年度事業報告

【特定非営利活動に係る事業】

1. 病気の子どもたちが良質な医療を受けるための環境整備に関する事業

(事業費 82,817 円)

● 病院での出張イベントの企画・開催

(1) 『クリスマスイベント』の開催

開催日時：2019年12月19日(木)、24日(火)、25日(水)

開催場所：東北大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院及び国立病院機構仙台医療センター

対象者：入院中の0歳～小学生の子どもたち

対象者数：仙台市立病院 40名

東北大学病院 33名

仙台赤十字病院 55名

国立病院機構仙台医療センター 25名 (合計 153名)

概要：仙台市立病院と東北大学病院、国立病院機構仙台医療センターにおいては、各病院のスタッフがサンタ隊として子どもたちにプレゼントを配布して下さることとなり、当法人(以下「ワンボケ」という。)ではプレゼントを作成・ラッピングし、イベント当日に病院スタッフへお届けするところまでを担当した。

仙台赤十字病院においては、ワンボケのスタッフでもある病院スタッフがサンタクロースやツリー、トナカイの扮装をし、NICU と小児科病棟へ入院中の子どもたちへプレゼントを手渡した。また、小児科病棟では、病棟主催のクリスマス会に合流し、プレゼント配布を担当した。終了後、会には来られなかった子どもたちの病室を訪問し、ベッドサイドでプレゼントを手渡した。

配布したプレゼントはキャンディ・レイ(中身はビーズのアクセサリやミニリース、折り紙製の独楽、マグネット、昆虫のフィギュア、風船など)、毛糸とフェルトで作った指人形、厚紙とフェルト製の写真立て、クリスマスカードなどで、その多くは例年同様ボランティアやスタッフの手で作られたものである。これらに加え、株式会社ジーシー様よりご寄付いただいた歯ブラシや、寄付金で購入した文房具類もあわせてラッピングし、子どもたちの年齢に応じたプレゼントを配布した。

プレゼントの作成に協力して下さったボランティアは約20名以上と、多くの方々との協力のもとイベントを成功させることができた。

2. 病気の子どもたちとその家族を支援するための事業

(事業費 777,195 円)

● 宿泊施設「ラッコハウス」の管理運営

運営期間：2019年4月1日から2020年2月29日まで

利用日数：14泊(22日)

利用者数：延べ23人(延べ8家族)

概要：昨年に引き続き利用者数は減少した。東北大学病院では産科・NICU・小児科の各病棟、また、外来では小児科・歯科・形成外科にパンフレットを配備しラッコハウスについて随時紹介して下さっているが、近年のマクドナルドハウス利用者の増加や、病児の状態が安定したことによりこれまで継続的に利用されていたご家族の利用がなくなったのが影響して

いると考えられる。

なお、2020年1月末に、ハウスの施設を提供して下さっていたアパートのオーナーより建物の老朽化が激しいため取り壊しが決まったとの連絡を受け、理事及び運営委員で協議を重ねた結果、ハウスの利用数が年々減少傾向にあることも踏まえ2020年2月をもってラッコハウスを閉鎖した。

●病児の兄弟姉妹の交流会「きょうだいの会」の開催

開催趣旨： 重い病気を患うきょうだいをもつ子どもたちは、家族の配慮にもかかわらず、孤独感や不安を抱きやすいことが知られている。このような境遇にある子どもたちが大人のスタッフ・学生ボランティアと一緒にゲームをしたり、豊かな自然に触れたりすることで、ストレスを発散し孤独感や不安感を癒すことが出来る心の居場所となるような場を提供する。

開催回数：3回（企画4回）

参加者数：延べ25人（10家族の子ども）

概 要：各開催概要は次のとおり

第1回きょうだいの会

開催日時：2019年8月10日（土）

開催場所：宮城学院女子大学構内（調理室 体育室 屋外）

参加者数：子ども6名 ジュニアボランティア2名

一般・学生ボランティア6名 スタッフ5名

概 要： 宮城学院女子大学の調理室と体育館及び屋外スペースを借りてお料理と遊びの企画を実施した。

午前中は、2つのグループに分かれ夏野菜カレー作りに挑戦した。

「これくらいの大きさでいいかな？」「もうちょっと細かく切りたい」などとおしゃべりをしながら夏野菜のナスや色鮮やかな人参、パプリカなどを丁寧に切っていた。煮込んでいる間にオクラやチーズ、パプリカを星型にくり抜いてトッピングも用意した。お昼には全員揃って星型の野菜が散りばめられた可愛く美味しいカレーを食べた。

午後は体育室に移動し『ワンポケ夏の陣』と題し、2チームに分かれ様々な指令や勝負に挑んだ。小さなビニールプールに浮く「指令が書いてある水ヨーヨー」を釣りあげる『借り物競争』やフラフープで縄跳びをする『障害物競走』、袋に小さなお菓子を詰め込んだパン食い競争ならぬ『お菓子食い競争』、『吹き矢』や『玉入れ』など体育室中で歓声や悲鳴があがり大いに盛り上がった。また、屋外では水鉄砲を使って『城落とし対決』を行い勝利したチームはハイタッチをして喜びを分かち合った。

おやつにはイチゴやブルーハワイ、メロンのかき氷シロップと炭酸水でソーダ水を作り、アイスクリームを乗せてオリジナルのクリームソーダを作って味わった。自由時間には屋外で水遊びを楽しみびしょ濡れになりながらもはじける笑顔を見せてくれた。帰り際には「まだ帰りたくない」「もっと遊びたい」などという声もあった。

第2回きょうだいの会

開催日時：2019年11月16日（土）

開催場所：仙台市内

(スリーエム仙台港パーク かまぼこの鐘崎 仙台うみの杜水族館)

参加者数：子ども5名 ジュニアボランティア2名
一般ボランティア4名、スタッフ3名

概要： 秋のおでかけ企画としてマイクロバスを借り仙台港方面へ出かけた。はじめはスリーエム仙台港パークへ向かい港を見下ろす見晴台に上がり停泊するフェリーを眺め、その後はバレーボールやバドミントン、じゃんけんグリコなどを行い自由に過ごした。その後「かまぼこの鐘崎 笹かま館」へ移動し笹かま工場の見学をした。笹かまに使われる魚についてプロジェクションマッピングで学び、機械に入れられた白身魚のすり身が様々な工程を経てゆっくり焼かれて笹かまになるまでの様子を見学した。お昼ご飯には笹かま館の中にあるカフェで笹かまを使ったメニューを食べた。

午後は仙台うみの杜水族館を見学した。子どもたちは各自好きなエリアから回り、大水槽の前で長時間じっと魚を見上げている子もいれば、深海魚に触れて興奮する子、スタッフのカメラを借りて生き物の写真を撮って楽しむ子もいれば、幻想的なクラゲに見とれる子もいるなど、どの子も思い思いに楽しんでた。久しぶりの参加ではじめは緊張気味の子もいたが、大学生やジュニアボランティアのお兄さん・お姉さんが明るく優しく話しかけてくれ、お昼ご飯を食べる頃には自然な笑顔をみせてくれた。

第3回きょうだいの会

開催日時：2020年1月25日(土)

開催場所：日立システムズホール仙台

参加者数：子ども9名 ジュニアボランティア1名
一般ボランティア4名 スタッフ4名

概要： 日立システムズホール仙台のアトリエを借りて『マジックショー&バルーンアートレッスン』とワークショップの2つの企画を実施した。

午前中は仙台市在住のパフォーマーの方に来てもらい『マジックショー&バルーンアートレッスン』を行った。目の前でテーブルマジックや計算マジックを披露してもらいタネや仕掛けを探ろうと真剣な様子で必死に目で追っていた。また、バルーンを使ってキャラクターやお花などの作り方を教えてもらい実際に自分たちで作る体験をして満足気な表情をみせてくれた。昼食はそれぞれ好きなメニューを選んで注文したハンバーガーとポテトのセット、おにぎりを食べた。

午後は臨床発達心理士の資格を持つスタッフとボランティアさんによる『ひみつの庭をつくろう』という、瓶の中に自分の分身となる動物を必ず入れて「自分のお庭」をつくるワークショップ。目の前に並べられたミニチュアの動物や植物、家具や建物・乗り物、カラフルな砂など様々な材料の中から自分が好きなものを選び、思い思いに表現してもらった。「私の分身はこれ!」「海にしたいから青い砂を入れたい!」「森の中にいるようにしたいから緑の砂と木や草を入れよう!」「白を使ってふわふわな感じを出したい!」などとおしゃべりをしながらどんどん手を進めた。完成後は全員で①タイトル②お庭の住人(自分の分身)③お気に入りのポイン

ト④お庭で何をしたいかを紙に書いて発表した。最後はスタッフが作った海と芝生の大きな枠の中にそれぞれが好きな位置に置き、ひとつの空間を作り共有の時間をもった。『海辺の家の前でのんびりお昼寝をしている猫』や『緑が茂った森の中でハリネズミの家族が集まっておしゃべりをしている様子』など一人ひとり個性あふれる作品となった。中にはなかなか素材を選べず作業が進められない子どももいたが、ボランティアさんが優しく質問しイメージを聞いて手伝いながら完成させることができた。

第4回きょうだいの会（中止）

開催日時：2020年3月28日（土）

開催場所：大崎・鳴子方面への遠足

中止理由：上記内容での会の開催に向けて準備を進めていたが、3月に入り新型コロナウイルス感染症における感染拡大対策やイベント中止が求められたため、理事及び実行委員で協議した結果、参加者及びそのご家族の安全を考慮し開催を見送った。近年参加してくれている子どもたちには実行委員から「延期のお知らせ」をハガキで送付した。

- きょうだいの会OB・OG交流会の開催
2019年度は実施できなかった。

- ボランティア感謝会の開催

開催日時：2020年2月23日（日）

開催場所：TFU Cafeteria Olive

参加者数：15名

開催趣旨：ワンポケの役員やスタッフが、各活動に携わったボランティアや協力団体、病院関係者などを招待し感謝を伝えるとともに、活動報告や情報交換の場とする。

概 要： 当法人の役員や運営委員が、この一年間にお世話になったボランティアや協力企業の方々、病院関係者の皆様などをお招きして食事をしながら交流し、日ごろの感謝を伝えた。各活動を紹介するスライドショー上映やくじ引き大会も行い、和やかな雰囲気の中で、ワンポケの活動への思いを話し合った。

3. ボランティアを育成するための研修プログラムの提供事業 （事業費 0円）

- ボランティア・スキルアップ講習会の開催

開催日時：2019年12月21日（土）

開催場所：宮城県立こども病院 愛子ホール

開催趣旨：病院の小児病棟などで活動をしているボランティアの方々やこれから病院ボランティア活動を志す方々、保育士や学校教育に携わる方々など幅広く子どもに寄り添う人々を対象に、子どもを取り巻く社会環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講義内容：『子どもたちの心身症 現代の養育環境は子どもの希望とみらいを奪う～』

講師：ワンダーポケット理事長 田澤 雄作 先生

受講者数：約30名

概要：今年度も宮城県立こども病院との共催でボランティア・スキルアップ講習会を開催した。当法人の理事長である田澤雄作先生を講師として、長時間の映像メディアから始まった慢性疲労がその回復のための良質な睡眠不足と無気力を助長し自尊心を傷つけられ、寂しく生きる子どもたちをつくり出し、多様な社会現象（不登校・発達障害・ネット依存）や反社会的事件の源となっている。その背景にあるのは長時間の映像メディアの他に進学競争や部活動によって「家族・親子の時間」といった子どもの幸せな時間を奪っていることも見逃してはならない。そしてその責任は無関心な大人にあるということ、田澤先生ご自身が小児科医として長年多くの子どもたちと向き合ってきた経験や研究から見えてきたメッセージをお話しくださった。

受講者のアンケートには「保育士なので日頃から子どもたちの「スマホ依存」「ネット依存」に恐怖を感じていたが、具体的にどのような影響をもたらすかを知らなかった。今回田澤先生のお話を聞いて改めて恐怖を感じるのと同時に、「まなざし」や「会話」「笑顔」が大切なのだと学んだ。依存する子どもたちの根源には「寂しさ」があることを忘れずに今後も子どもたちに接していこうと思います。ありがとうございました。」
「いつも興味深い題材についての講演をありがとうございます。次回も田澤先生の講演を希望します。」など、多くの受講者から「参加して良かった」という内容の感想が寄せられ今回のテーマに関する関心の高さがうかがえた。

●ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会

開催日時：2019年7月16日（火）

開催場所：宮城学院女子大学構内

開催趣旨：きょうだいの会に参加する学生ボランティアを対象に「きょうだい」を取り巻く家庭環境の問題点を抽出し共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケット及びきょうだいの会の活動を学生たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

講師：足立 智昭先生

受講者数：約10名

概要：きょうだいの会責任者の足立先生を講師とし、宮城学院女子大学の学生ボランティアと一般ボランティアを対象に「きょうだい」の心の状況、「きょうだい」に必要な心のケアとはどんなものかについてお話しいただいた。そのうえで、きょうだいの会が目指すところやどのような活動が望まれているかについて理解してもらう場となった。また、スタッフからは「きょうだいの会」の活動の様子を説明し、活動に参加してもらうようお願いをした。

●ワンダーポケットの活動を通じたボランティアの育成・支援

活動事業：総会、ボランティア講習会、クリスマスイベントなど

従事者数：延約80名

概要：ワンダーポケットが主催したイベントの際には、宮城学院女子大学の学生や宮城大学のOB・OGをはじめ一般のボランティア希望者へ、メールやブログ、フェイスブック等を通して呼びかけを行い、ボランティア活動の場を

提供した。各イベント後には成果や反省点等を共有する機会を持ち、継続的なボランティアの育成を図った。

4. この法人の活動に関する一般社会の理解をより深めるための広報、啓発事業

(事業費 165,940 円)

- ホームページ、ブログ「ラッコのしっぽ」、フェイスブックの継続
ホームページやブログをイベント開催前や終了時を中心に随時更新するとともに、ワンダーポケットのフェイスブックも併用し、外部への情報公開や会員・支援団体への活動状況報告、ならびに各イベントやボランティア作業への参加呼びかけのツールとして活用した。

- ワンダーポケット通信の発行
発行回数：2回
発行部数：各150部
概 要： ワンダーポケットの活動状況を、会員やこれまで様々な形で活動を支援してくださっている方々に知らせていくため、ワンダーポケット通信 Vol.35および Vol.36を発行した。Vol.35では 2018年度後半の活動報告を行い、Vol.36は 2019年度前半の活動を報告する内容となっている。

- 法人紹介リーフレットおよびラッコハウス案内リーフレットを改訂
ラッコハウスを閉鎖することになったため実施出来なかった。来年度、法人紹介リーフレットの改訂を実施することとする。

- 『ボランティア・スキルアップ講習会』の会場において書籍の展示・販売を行う
病気の子どもに関する書籍の展示・販売は、2019年度は実施しなかった。

- JHHH ネットワーク会議への参加
開催日時：2019年10月26日(土) 27日(日)
開催場所：九州大学病院キャンパス内総合研究棟
参加人数：2名(運営委員・事務局 各1名)
概 要： 全国の病児と家族のための滞在施設を運営する団体が集まる JHHH (日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス) ネットワーク会議に参加した。1日目は九大大学院の田口智章教授による「小児がん拠点病院としての取り組み—小児科医として—」というテーマの講演と福岡ファミリーハウスのみなさんによる「シバタハウス」ができるまでの発表をお聞きした。「シバタハウス」はクラウドファンディングにより活動費を集め、600名以上の方々の支援と協力により3年前に九州大学病院の近くに建てられたという内容のお話を聞き、発表後には見学もさせていただいた。2日目は NPO 法人福岡こどもホスピス理事の濱田裕子先生による講演会に出席した。その後の分科会では「病院等との連携に」というテーマに参加し、全国のファミリーハウスの方々と悩みや意見交換を行った。

5. その目的を達成するために必要な事業

(事業費 0円)

●『ワンダーポケット』の組織強化活動

(1) 新規会員募集活動の実施

ボランティア・スキルアップ講習会などの場を活用して新規会員を募ったほか、役員や運営委員からも周囲へ会員募集の声かけを行ったが今年度の新規会員はなかった。

(2) 現在の会員数の状況

2020年度3月末時点の全会員数は78名で、その内訳は一般会員62名、学生会員1名、賛助会員15名(うち団体4)となっている。また会費の未納者は18名で未納額は62,000円である。

なお、2019年度は7名が退会した。

●会議の開催

(1) 理事会の開催

①開催日時；2019年5月23日(木)

開催場所；仙台かき徳

議 題；総会に付議すべき事項について

②開催日時；2020年2月23日(日)

開催場所；TFU Cafeteria Olive

議 題；主たる事務所の移転について

(2) 総会の開催

開催日時；2019年6月16日(日)

開催場所；みやぎNPOプラザ 第二会議室

議 題；2018年度事業報告及び決算報告
2019年度事業計画案及び予算案

●事務局の運営等

(1) 事務局員(2名)

(2) 運営委員会の開催 計5回

(3) 実行委員会の開催 計4回

【その他の事業】

その他の事業(物品の販売事業及びチャリティー事業)は実施しなかった。